

「Jリーグへのトラッキングシステムの導入とデータ活用の課題」

データスタジアム株式会社 加藤 健太

1. はじめに

Jリーグでは、明治安田生命J1リーグ2015ファーストステージ第1節からトラッキングデータの取得を開始しており、Jリーグ公式ウェブサイト[1]を始め、各種メディアや媒体においてJリーグでプレーする選手の走行距離やスプリント数といったデータが掲載されるようになった。これまで海外の主要リーグや国際大会ではこうしたデータが露出されていたが、J1リーグ戦の全会場でも実施されるようになったことで、国内のチームや選手のトラッキングデータの比較が可能になった。これにより、ファン層に向けて新たな価値を提供できるようになっただけでなく、選手のフィジカル面でのパフォーマンスを客観的に評価・分析するための素地ができたと言えるだろう。

2. Jリーグにおけるトラッキングデータの取得と活用

トラッキングシステムでは、専用カメラとソフトウェアを用いてピッチ上の選手、審判、ボールの動きを自動で追尾することで、それぞれの動きをリアルタイムにデータ化している。ここでは、実際に明治安田生命J1リーグが開催されている現場においてどのようにトラッキングデータが取得されているかについて説明する。また、そうして取得されたトラッキングデータについて現状どのような切り口が用意されているか、どのような分析が行われているかについて、Football LAB[2]などの事例を取り上げる。

3. 今後のデータ活用の課題

走行距離やスプリント数はその選手のフィジカルおよびプレイスタイルの1つの指標となり得るが、それだけでオフ・ザ・ボールの動きのクオリティや、ましてやサッカー選手としての優劣が決まるものではない。トラッキングデータ単体でもまだまだ多様な切り口が考えられ、そこにオン・ザ・ボールのプレイデータを掛け合わせることで、チームや選手のパフォーマンスをより深く分析することができる。また、そうした深い分析から生まれる考察が、今後Jリーグのチームの戦術や選手のプレイに影響を与えるということも考えられる。

本発表では、Jリーグにおけるトラッキングデータ取得の現状を説明しながら、より効果的な分析活用方法について今後の課題と可能性を探っていくことにする。

【Reference】

[1] Jリーグ公式ウェブサイト <http://www.jleague.jp/>

[2] Football LAB <http://www.football-lab.jp/>